

附属小の研究発表会 ここがポイント！

POINT ① 全ての教科等で「言語活動を大切にした授業」を提案します！

POINT ② 「学び合う」子どもたちの姿をご覧ください！

POINT ③ いつでも誰でもできる論理的な思考に着目した授業を公開します。
■3年「あなたなら、どっちをえらぶ？」……………授業者 井上 竜作
■5年「ポスターを読み解こう？」……………授業者 前田 陽子

POINT ④ 子どもの姿をもとに「これからの授業」について一緒に語り合しましょう！

— 研究主題 —

豊かな「対話」で広がる創造的な学び（2年次） ～論理的に思考し、表現する子どもを育む授業方略～

期日 平成26年2月14日（金）

会場 熊本大学教育学部附属小学校

内容 各教科等の授業公開・分科会
講演「学びの質を高める授業デザイン」

講師



あき た き よ み
秋田 喜代美先生

東京大学大学院教育学研究科教授
博士（教育学）。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。
日本保育学会会長。日本読書学会会長。世界授業研究学会(WALS)副会長。

著書：『授業研究と学習過程』（放送大学教育振興会）
『学びの心理学：授業をデザインする』（左右社）
『子どもをはぐくむ授業づくり』（岩波書店）



研究発表会申し込み締め切りは**2月7日（金）**です。よろしくお願いします。

ホームページ <http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~elem/> **熊大附属小** **検索**

熊本大学教育学部附属小学校 研究だより VOL.38

発行日 平成26年1月24日

編集・発行 熊本大学教育学部附属小学校 〒860-0081 熊本市中央区京町本丁 5-12 TEL 096(356)2492 FAX 096(356)2499

VOL.
38

平成 25年度 熊本大学教育学部附属小学校

附属小 研究だより



豊かな「対話」で広がる創造的な学び（2年次） ～論理的に思考し、表現する子どもを育む授業方略～



詳しくは裏面をご覧ください

研究発表会締め切り間近！！

ごあいさつ

平成26年の新しい年を迎えました。いよいよ熊本大学教育学部附属小学校の研究発表会目前となりました。

本年度は、3年間の文部科学省指定校として「論理科」開発に取り組んだ研究成果を、各教科等における言語活動の充実に向けて具現化すべく「豊かな『対話』で広がる創造的な学び」（2年次）のテーマのもと、「論理的に思考し、表現する子どもを育む授業方略」について追究します。

新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能を「活用」するために、言語活動を通して「思考力、判断力、表現力」等を育てることが指摘されています。本校では、子どもたちが根拠（客観的な事実・データ）をもとに、自分なりに理由づけ（事実・データの解釈・推論）をして、自分の意見を主張し、友達と話し合い、考え合うという言語活動の充実を図ることが、思考力・判断力・表現力の育成、さらには応用可能な知識・技能の形成につながると考えて、実践を重ねてまいりました。研究発表会では、各教科等で「豊かな『対話』で広がる創造的な学び」のあり方を提案します。午後の講演では、東京大学大学院の秋田喜代美先生に「学びの質を高める授業デザイン」と題してご講演いただきます。

学期末のご多用な時期とは存じますが、多くの先生方にご参加いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校 校長 河野 順子

公開授業Ⅰ

9:00 ～ 9:45

国語 第1学年「たぬきの糸車」

最後のたぬきの行動をどう読むか



物語の最後の場面。たぬきは「びょんびよこおどりながら」帰っていきます。はたしてたぬきは何がうれしかったのか？根拠を示しながら説明し合うことで、互いの読みを深めていく子どもの姿をお見せします。

(坂崎 慎太郎)

社会 第5学年「日本の工業」

ものづくりのすごさを再発見!!



子どもたちは、「日本の工業は素晴らしい技術をもっている」と、言葉だけで安易に納得しがちです。日本のものづくりの素晴らしいさを実感し、世界に誇る日本のものづくりの姿をとらえ直していく授業を提案します。

(西澤 剛)

理科 第6学年「語り合おう、私たちの環境」

バランスドアクアリウム？

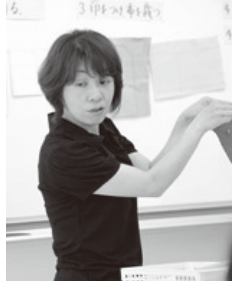


閉鎖系のまま長時間生態系のバランスが保たれ、水かえやえさやりが不要な「バランスドアクアリウム」。子どもたちは、これまでの学習をもとにそのひみつを「対話」の中で探っていきます。

(原口 淳一)

家庭科 第6学年「献立と調理」

弁当から探る！献立のポイント



家庭における弁当作りは、栄養、色どり、好み、旬、調理時間、そして愛情等、状況に応じて、様々な工夫がなされ、作られています。授業では、ある子どもの弁当と家庭の状況を関係づけることで、献立のポイントを探っていきます。

(廣瀬 文子)

豊かな「対話」で広がる創造的な学び

研究部長 井上 伸円



私たちは、全ての教科等において、子どもたちが他者との「対話」を通して自己の課題を見出し、思考を練り上げ、新たな知識・技能を獲得していく授業を目指しています。しかし、子どもたちそれぞれの考えが絡み合い、練り上げられていくような授業を創っていくことは、簡単なことではありません。発言は多く出されるものの、話し合いが噛み合ず、子どもたちの思考の深まりを促すことができなかった授業を私自身も多く経験してきました。

そこで、授業の中で「何を根拠に」「どのような理由づけで」思考・判断しているのかを子どもたちに問いかけ、自分や相手の「論理」を意識させていくことを大切にしていきます。このことは、子どもたちが、対話の中で互いの考えに共通している点や違いに気づき、その妥当性を吟味することや、自分自身の考えの道筋を見直していくきっかけとなっていきます。低学年では、しっかり根拠を示しながら説明すること。中学年では、互いの理由付けを検討し合うこと。さらに高学年では、根拠の妥当性までも吟味させていくことを授業の中で行っています。

研究発表会では、「何とか課題を解決したい」「相手に自分の考えを伝えたい」など、論理的に思考し、表現する子どもの姿を多くの先生方に見ていただき、ご指導頂ければ幸いです。

算数 第3学年「三角形」

概念獲得型の授業を提案します



子どもたちにとって、三角形と言えば「正三角形」。しかし、正三角形は「特別」な存在です。図形の概念獲得は、案外難しいもの。具体的な操作活動や対話による概念獲得型の授業を提案します。

(余宮 忠義)

音楽 第1学年「旋律の反復」

反復のおもしろさとは？



音楽は見えないもの。感じ取ったことを伝えるには、手がかりが必要です。聴き比べて感じ取ったことを話し合い、感じ方の違いを交流させることで、反復によるおもしろさを味わう授業を提案します。

(蒲地 悦子)

外国語活動 第5学年「We are Asian②」

What would you like for lunch?



世界の和食！といっても、外国の人にはまだなじみのないものばかり。牛丼、お好み焼き…、どう英語で説明しよう！？何とか伝えようと四苦八苦しながら、伝わる楽しさが味わえる授業を提案します！

(前田 陽子)

総合 第5学年「読み取った事実から」

「ポスターを読み解こう」



国語 第6学年「海の命」

「海の命」で何を読むか



もりを打たなかった太一の心情に迫るため、太一と周りの人のかかわりを手がかりに、太一の行動の意味を読み解いていきます。

根拠・理由づけをもとに文学的文章の新たな学習を提案します。

(下中 一平)

理科 第4学年「水の三態変化」

目に見えない水蒸気を理解する



水が沸騰している時、水の中から出てくる泡の正体は？この答えは、大人でも間違います。水が水蒸気になる時の体積変化から、目に見えない水蒸気の存在をとらえていく授業を提案します。

(岩永 聡)

図工 第5学年「アニメーションをつくろう」

動くよ、動く、アニメーション!!



ノートの端に数枚の絵を描き、それを指ではじいて動かすバラバラマンガをつくった経験がある人も多いことでしょう。本実践では、ipad でアニメをつくる活動を通して、効果的な表現について考える授業を提案します。

(北野 宏政)

総合 第3学年「複数の根拠をあげて」

あなたなら、どっちをえらぶ？



スーパーマーケットとコンビニ、〇〇を買うなら、あなたはどちらで買いますか？目的や状況に応じて両者のメリットやデメリットを明らかにしながら子どもたちが論理的に説明していく授業を提案します。

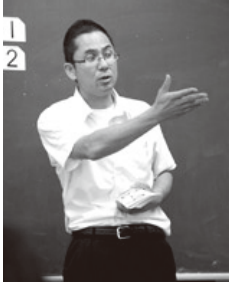
(井上 竜作)

公開授業Ⅱ

10:00 ～ 10:45

算数 第2学年「はこの形」

辺の特徴をとらえる



面の位置関係をとらえた子どもたち。箱を構成するためには面と面をつなぐテープが必要です。このテープの数や長さなどを操作活動や対話によりとらえていくことで、辺の特徴を明らかにしていきます。

(増藤 孝成)

生活 第1学年「たんけんしよう！ えきのまち かみくもと」

おたずねで気付きの質を高めます



「おたずね」は、事実を問う力・関係づける力を高めるとともに、再追究を促して気付きの質を高めるものでもあります。そのための教師の手立てについて、提案します。

(藤本 裕人)

体育 第4学年「ネット型ゲーム」

「頭と体で分かる」ボンバーバレー



ボールを相手のコートに落としたり、自分のコートに落とさなかったりする楽しさを存分に味わう中で、よりよい動きや自分なりの動きのコツが「頭と体で分かる」授業を提案します。

(豊田 誠一郎)

